

野々市の下駄屋

昭和の初め頃、野々市の^{しん}新町・^{ひといち}一日市町（本町二丁目）には瀬戸店と吉田店、^{にし}西町（本町四丁目）には嶋田店、木戸店、能登店と5軒の下駄屋がありました。※1

当時の下駄屋はほとんどが製造から販売までを行っており、客の注文に応じて^{はなお}鼻緒・^{つまがけ}爪掛を選ばせ仕立てました。材料は桐材が主流で、これは桐が湿気に強く軽いことから履物に適していたことによります。

※1 野々市公民館『聞き書き野々市よもやま話』（2005年）より



嶋田履物店（昭和28年頃）